

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和6年度第3回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	令和6年8月23日(金) 14時～16時		
開催場所	小金井市野川クリーンセンター		
出席者	委員	<出席者：13名> 渡辺会長・岡山副会長・溝入委員・岸野委員・橋爪委員・林委員・北村委員・多田委員・清家委員・保谷委員・長友委員・石原委員・井上委員 <欠席者：1名> 光明委員	
	事務局	今井ごみ対策課長・鈴木ごみ処理施設担当課長・立崎減量推進係長・竹内清掃係長・高橋施設係長・菊地主事	
	計画策定 支援受託者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 米田 理津子管理技術者、山口 侑也担当技術者	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 2 報 告 3 議 題 (1) 小金井市一般廃棄物処理基本計画等について (2) その他 4 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他			

渡辺会長	これより令和6年度第3回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。
立崎減量推進係長	(配付資料確認) (会議録確認)
今井ごみ対策課長	<p>審議会委員の辞任についてご報告をさせていただきます。</p> <p>この度、富永委員が一身上の都合により辞任となった。これを受け、現在新たな委員を募集する準備を進めているが、3市ごみ減量推進市民会議に派遣している市民委員に欠員が生じることから、改めて市民公募の委員の方の中から1名を推薦していただきたい。本来であれば、新たな委員の決定後に選考いただくところだが、すでに今期の3市ごみ減量推進市民会議が開催されていることから、早急に委員を決定する必要がある。</p> <p>まずは選出方法についてご承認いただきたい。</p>
渡辺会長	<p>本日の会議で選出するということでよいか。</p> <p>(承認)</p> <p>それでは、どなたか委員の推薦はあるか。</p>
岡山副会長	<p>策定を予定している食品ロス削減推進計画は、3市ごみ減量推進市民会議の発案で実施した、食品ロスに関する意識調査の結果を活用することになっている。したがって、前任期で市民委員を務めていただき、3市ごみ減量推進市民会議の取組内容についても精通されている林委員を推薦する。</p> <p>(承認)</p>
渡辺会長	<p>それでは、ただいま選出された林委員から一言お願いします。</p> <p>(林委員より挨拶)</p>
今井ごみ対策課長	(「報告事項」について説明)

鈴木ごみ処理施設担当 課長	(「報告事項」について説明)
渡辺会長	資源物処理施設と野川クリーンセンターは、一体で管理するのか。また現在、野川クリーンセンターで行われていることの一部が資源物処理施設に動くのか。
高橋施設係長	一体管理となる。野川クリーンセンターに搬入される粗大ごみの中には、自転車のように「空隙率」の大きなものがあるが、現在建設中の資源物処理施設には「圧縮機」が導入されるため、それらを資源物処理施設でプレスして金属の塊にしてから業者に売却する。その一方で、ごみとして野川クリーンセンターに入ってくるものもある。
鈴木ごみ処理施設担当 課長	現在、野川クリーンセンターで積み替えを行っているプラスチックごみは、有害ごみ等と一緒に資源物処理施設に移る。
渡辺会長	一般廃棄物処理基本計画等の策定について事務局に説明を求める。
今井ごみ対策課長	(「一般廃棄物処理基本計画等の策定について」説明)
立崎減量推進係長	(「各計画策定に向けたスケジュール(案)」の説明)
計画策定支援受託者	(「各計画策定に向けたスケジュール(案)」の説明)
石原委員	退蔵ごみとは何か。
計画策定支援受託者	例えば、高齢者の自宅でなかなか捨てられない大型の家具などのように、自宅にあるが使われておらず、平時に廃棄されていない品目のことである。 こういった退蔵ごみが、浸水区域内で浸水してしまった場合は、どうしても片付けごみとして出てきてしまう。平時に排出されていれば適正処理されるものが災害時に出てきてしまい、処理に支障をきたす事例が全国で発生している。

岡山副会長	<p>実際に、地震や水害の際の廃棄物には、保管しているだけで着なくなった衣服や、読まない本などがある。</p>
渡辺会長	<p>量的にはあまり無いが、災害時の分別排出で関わってくるものとしては、未使用の農薬や古い消火器などのように、災害時に出されると非常に困る有害物のようなものもある。災害廃棄物処理計画というよりは、基本計画の方に関わってくるかもしれないが、災害時のことを考えて家庭に溜まっている有害物を集めるような方策も考えてもよいのではないか。</p>
計画策定支援受託者	<p>農薬や、数十年保管しているような灯油缶の油などが災害時に出てきてしまい、仮置場での管理に支障をきたし、処理ができないということが実際にあった。一方で、実態として平時の処理ルートが確立されていないことがあるため、基本計画の改定をする中で、こういったことがあり得るなどの現実的な内容も考えながら落とし込んでいければよいと思う。</p>
林委員	<p>数値目標に関して、例えば「4・5年後には生ごみを可燃ごみから外せるところまで近づけたい」というような目標を設定することを、市側から条件提示できるか。</p>
計画策定支援受託者	<p>条件を提示いただいて設定するケースもあれば、計画策定支援受託者側で案を出して議論を進め固めていくようなケースもある。</p>
林委員	<p>小金井市は可燃ごみを広域支援に頼ってきたということもあり、市も一貫して可燃ごみを減らそうという意識を持っていると思う。</p> <p>生ごみを燃やすごみから外すことを掲げる場所はないかとずっと考えていた。基本計画というのは長期計画であるため、そこで目標を設定できないかと思っている。</p> <p>それから、生ごみや食品ロスに関する組成分析は、前回かなり細かく分類したと思うが、どこまで細かく分析をするのか。食品ロス削減推進計画の策定にあたり重要となると思うので、十分検討して提示していただきたい。</p> <p>3市ごみ減量推進市民会議で、食品ロス削減のためのアンケ</p>

	<p>ート調査をしたが、知っていることをきちんと実行すれば、食品ロスは減るのではないか、という結果しか出てこなかった。</p> <p>どういものが多い、どういった施策が有効か、ということが見えるようにしないと、具体的に進まないというのが一番気がかりである。そういった原因分析ができるようなアンケートになるとよいと思う。</p>
岡山副会長	<p>前回の基本計画の際は、我々の方で提案した食品ロスの分類に従って調査しているが、その中で、未開封の食品あるいは食べ残した食品で、期限内の食品がたくさん捨てられていた。できれば、期限の記載があるものについては、調査日から見て「何日賞味期限が過ぎているのか」についても記録していただきたい。私達が実施している別の調査で同じことをしているので、次のステップで何をやるかの資料になると思う。</p>
渡辺会長	<p>例えば、廃食用油も食品ロスであり、揚げ物で残った油を炒め物等ですべて使い切ることが望ましいが、難しい面もある。</p> <p>廃食用油は非常に良い資源になるので、資源として有効利用してもよいと思う。食品ロス削減に関しては、家庭由来だけに絞るのか、事業系も含むのか。</p> <p>また、現実には食べることが難しいようなもの、例えば、事業所でサンドイッチを作る際に出る大量のパンの耳などもできるだけ減らしたほうがよいが、単に減らすのではなく、餌にするなどの有効利用方法も食品ロス削減推進計画の中に盛り込んだほうがよいと思う。</p>
溝入委員	<p>アンケート調査に関して、郵送・インターネットのいずれかの手法での実施ということだが、訪問では実施しないのか。</p>
計画策定支援受託者	<p>訪問は予定していない。</p>
溝入委員	<p>回収率の問題や対象のサンプル層の選び方も難しいが、出てきた答えにどのように一貫性を持たせるのか。せっかくアンケートを実施しても、あまり利用できないような結果だともったいない。</p>

渡辺会長	ワークショップの中でなら、対面で聞くことはできるのではないか。
溝入委員	11月に実施するため、方向性はある程度固まっていると思う。出てきた結果が無意味なものにならないように調整していただきたい。
渡辺会長	対象が3,000名と書かれているが、層化サンプリングのような形でできるだけ満遍なく取るとしたら、どういう要素で層化するのか。
今井ごみ対策課長	行政内部で性別や年代等の平準化を図った上で、発送する予定である。
溝入委員	世帯単位で考えるのか。それとも、個人単位で考えるのか。
今井ごみ対策課長	個人単位であるが設問に関しては調整中のため留意する。
渡辺会長	住居形態を指定して層化するわけではないのか。
今井ごみ対策課長	住居形態まではわからない。
林委員	小金井市民のごみに対する意識調査という位置付けであるが、他市との比較は出来るのか。
計画策定支接受託者	公表されているもので同じ設問があれば比較対象になりうると思うが、比較対象として望ましいデータであるかは確認が必要である。
林委員	過去にもこの調査は実施しているのか。
今井ごみ対策課長	実施しているが、同じ設問にするかどうかも含めてこれから調整する。
林委員	コロナ禍後の意識など、過去との比較が見たい。3市の共同処理が開始して、今はどうかなども含め、継続して訊くべき設問とそうでないものもあり、検討が必要だと思う。

<p>今井ごみ対策課長</p>	<p>今だから入れるべき設問も必ず出てくるため、その辺の取捨選択も含めて、計画策定支援受託者と協議しながら進める。</p>
<p>石原委員</p>	<p>市民3,000人は成人だと思うが、12万5,000人のうちの成人は、どのくらいになるのか。教えていただきたい。</p>
<p>今井ごみ対策課長</p>	<p>次回までに確認して回答させていただく。 回答者の年代についても平準化を図っていきたいところである。昨年度、3市ごみ減量推進市民会議で食品ロスに関する意識調査をWEBで実施したが、その方が回答しやすいと感じた。特に、自由記述について厚く書いていただける方が増えたので、そういった特性を生かし、郵送だけというのは避けたい。平準化に加え、回答率を上げたいと考えている。</p>
<p>岸野委員</p>	<p>回収率を考えて3,000人で問題ないということか。</p>
<p>今井ごみ対策課長</p>	<p>有効回答率・標準偏差の部分を確認し、3,000人であれば十分であるということを確認している。今後アンケートを実施する際に、算定した結果を示そうと考えている。</p>
<p>計画策定支援受託者</p>	<p>前回のアンケート調査は、回収率40～50%程度で、市民アンケートとしては、一般的な回収率だったと記憶している。 前回は郵送だったが、その中にQRコードを入れて、インターネットでも回答できる形を取った。手元に届くのは紙だが、回答は紙でもインターネットでも構わないという手法である。 設問については事務局と相談して、有効回答率が高くなるよう提案していきたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>今までは可燃ごみの処理を他市や他団体をお願いしていたため、可燃ごみを減らすということに躍りになっていた。その後、浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設が稼働して、効率化やコストのことも考えていこうということになっていると思うが、分別を増やすとその分コストがかかる一方、環境へのメリットがある。そうすると、効率化やコスト削減も、どういう基準で考えるかというところで、人によって価値観が違ふし、難</p>

<p>計画策定支援受託者</p>	<p>しくなってくると思う。</p> <p>基本計画で、これくらいの効率化とコスト削減を図る、とするのか、もっと市民参加を得るようなところで意思決定をしていくような枠組みを提示するのか、いろいろなアプローチがあると思う。</p> <p>こちら側から提案しつつ必要な事項を事務局と協議して進める形になる。</p>
<p>林委員</p>	<p>例えば回収頻度や各家庭からの回収品目などは毎年の処理計画に記載があり、これらは基本計画で決められていると言われるが、基本計画策定時にあまり議論がされていない気がする。例えばプラスチックごみの回収頻度が減ると、邪魔だからといってお店に返す人が増えるかもしれないし、ペットボトルを買う量も減るかもしれない。基本計画策定の段階で、そういうものもある程度見直せるとよいと思う。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>回収頻度が減るとサービス水準が低くなったと言う人もいる。</p>
<p>林委員</p>	<p>その反対をすごく恐れて前例踏襲を続けているが、小金井市は他市に比べて、ごみ処理費用が低くはなっていない。</p> <p>昔は、自前の処理施設を持っておらず、他市や他団体に処理依頼しているから処理費用が高いと言われてきた。ところが浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設が稼働してもまだ高い。清掃関連施設の整備が進んでいる最中ではあるが、それ以外に高くしている要因がないか確認する必要があると思う。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>毎週の回収を2週に1回の回収にすればコストは当然減る。それを望ましいと思う人もいれば、そうでない人もいる。この審議会ですべてを決めることができるのかは疑問である。</p>
<p>林委員</p>	<p>審議会ですべて決められるとは思えないが、例えば、市民アンケートで「今の回収頻度についてどう思うか」というような設問を設けてみるのはどうか。</p>

渡辺会長	<p>これだけ回収頻度を減らせばこれだけコストが削減できる、などの情報を伝えないとなかなか市民も判断できない。</p>
林委員	<p>日常生活が不便になるから今まで通りでよい、という意見が多数かもしれない。だが、2週間に1回の回収頻度で実施している市もあり、できないことではないと思う。</p>
今井ごみ対策課長	<p>コスト削減、効率化を考えるに当たり、浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設の稼働が契機となっているのではないかとこの指摘についてコメントさせていただく。</p> <p>浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設が稼働を開始し、処理体制が確立したことで、民間の一般廃棄物処理施設に搬入されていた事業系ごみが浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設に搬入されるようになり、処理量全体を押し上げてはいるが、このことは地域経済の活性化に繋がっているものとの認識である。</p> <p>今後、少子高齢化や人口減少社会が進んでいく中で、限られた財源をどう分配していくかということは何の自治体においても課題となっている。各施策に充てられるお金も無尽蔵にあるわけではない。それを踏まえて、コストをどこまでどうかけていくべきかを考える題材を取り上げていかなければならない。</p> <p>また、回収頻度にも話題が及んだところだが、廃棄物行政の特性として、便利さの追求や市民サービスを向上させるために回収頻度を増やせば、コストも回収量も上がり、反対に回収頻度を減らすと、市民の皆さんは不便さを感じたり、違法廃棄が増えたりするかもしれないが、コストも回収量も下がるということがあることを承知した上でご議論いただきたい。</p> <p>今般の基本計画の策定に当たっては、コストの低減を図りつつ社会動態を踏まえた施策を練り上げていけるよう、委員の皆さんに意見をいただきながら、整理できればと考えている。改めてご理解、ご協力をお願いします。</p>
岡山副会長	<p>小金井市は、色々な手段を駆使して様々なごみの回収を行ったり、様々な施策を展開してきている。</p> <p>例えば、廃食油については、可燃ごみで排出する人もいるが、食べきる人もいる。可燃ごみで排出されているのが実際に確認</p>

<p>石原委員</p>	<p>できたときには、イトーヨーカドーの廃食油の回収にどう誘導できるか、というように施策へ反映できると思う。</p> <p>災害のことも含め、食品・紙・プラスチックなど多くのことを聞いてみたくなくなってしまうが、すべてを盛り込んだら膨大な量になってしまう。</p> <p>私は「小金井市がやっている施策をどのくらい知っているのか」ということが一番知りたい。例えば、「イトーヨーカドーで実施している廃食油の回収」など、現在実施している施策を全て並べてみて、どのくらい認知されているのかを把握することは重要であると思う。</p> <p>おそらく半分以上の方は知らないと思う。私は自治会で市の環境関連について話をするが、そういう人がいない自治会では、市報で施策を見るくらいだろう。だから、岡山副会長が言われたように、市の施策の認知度を確認したほうがよいと思う。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>災害に関わることで、家に農薬がないか、捨てられずに困っていないかということも聞ける。</p> <p>昨年、小金井市民のアンケート調査結果と他市との結果を比較してみたが、プラスチックの包装がついているものを元々あまり買わないという行動は、他市よりも少し高めに出ているが、プラスチックごみが有料だからではないかと分析している。環境意識のような問い方をするとそれほど高くはないが、無意識に行動しているということもあるので、問い方も考えなければならない。</p>
<p>石原委員</p>	<p>市全体の財政の中で、どのぐらいの金額を廃棄物にかけられるのか。</p>
<p>今井ごみ対策課長</p>	<p>小金井市の場合、中期財政計画で大体5年間隔でしか出しておらず、長期の財政計画は持っていない。</p> <p>そのため、最上位計画である「小金井市基本構想」の中でどういう整理がされているのかということ把握しながらになる。本市は多摩地域の中でも低い方だった高齢化率が他市と同じ水準くらいまで上がってきていることから、近いうちに人口</p>

	<p>減少トレンドに入っていくのではないかと。民生費、福祉関連の支出の増加や市民ニーズの多様化にどのように向き合っていくかということも市全体としては考えていくことになると思われる。</p>
渡辺会長	<p>今までは若い世代の転入が多かったと思うが、どのような事情で高齢化が進んでいるのか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>人口動態には色々な見方があり、純粹に高齢化が進んでいくだけで出生率が下がるということもある。</p>
石原委員	<p>市内で活動していると、ファミリー層のための戸建てとマンションは増えているように感じる。今後も4・5年は増え続けると思うが、当然ごみも増えるだろう。その辺りをどう見ているのか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>小金井市より都心に行くと投機対象になるが、市内の住戸の新築は人口増の要因になっているだろうと言われている。それでも空き家も少しずつ増えている。路線価の調査報告書を見ると、もともと小金井市は地主の影響力が強く、土地の取引が活性化されていなかったが、近年、駅前の再開発が進んできて土地の取引が活発化してきているというような評価もいただくようになっており、小金井市の人口動態の流れ自体も変わりつつあるように感じている。そういったトレンドを踏まえつつ、可能な限り委員の皆さんに情報開示しながら、施策の方向性を定めたいと思っている。</p>
岡山副会長	<p>現行の指定収集袋の値段はいつ決まったのか。相当期間変わっていないと思うが、支払意思額調査を実施することがあるが、そういったことはやらなかったのか。</p>
今井ごみ対策課長	<p>指定収集袋の有料化は平成17年度に実施。その後、広域支援を受けるようになり、事業系一般廃棄物処理手数料を変更させていただいたのは平成20年度である。調査の件は確認したうえで回答させていただく。</p>

石原委員	<p>基本計画で決めていくのはある程度大きな施策だが、細かい施策がたくさんあり、市民には当事者になってもらう必要がある。確かにごみ袋代が高くなれば、ごみを出す側としてはパンパンに詰めて、出す回数を減らす。逆に重くなって回収コストが増える可能性もあるが、知ってもらうためにも調査はしたほうがよい。</p>
渡辺会長	<p>小金井市は今までの経過から、他市と比べれば市民のごみに対する関心の度合いというのは高いと思うので、そこを生かさない手は無いと思う。そうした市民参加をこれからどういう形で盛り上げていくのか、ごみに関する情報の見える化をどう進めていくのかということも、この基本計画の中で重要になってくると思う。指定収集袋の値段もあるが、ごみ袋1つ分を処理するのにいくらお金がかかるのかという情報が見える化できると良い。</p>
林委員	<p>毎年の処理計画でカバーしていること以上に基本計画に細かく盛り込まれているように思う。全体としての基本計画があって、毎年の処理計画で進めていく、というものとは少し異なる感じがしていた。</p> <p>例えば、審議会で議論して変えていこうとしても、基本計画で決まっているから変えられないということが結構あったと思う。基本計画と処理計画の棲み分けができるとうよい。</p>
今井ごみ対策課長	<p>基本計画は大きくくりでの方向性を示しておき、単年度の処理計画はアクションプラン・実施計画なので、その中で項目を定めて展開するのが行政としては定石になる。そういった形の運用ができるようにしたい。</p>
計画策定支接受託者	<p>処理計画の段階では基本計画の策定が既に完了していたので、審議会の中での議論を踏まえつつ書くべきところは書こうということがあったのだと思う。今回、行政からお示いただいた方針を踏まえ、どこまで盛り込むのかは、審議会でも議論をしながら詰めていく。</p>
渡辺会長	<p>広域支援を受けていたころは、とにかくこの率で減らしてい</p>

<p>計画策定支援受託者</p>	<p>かなければならないということを基本計画で定める必要があったが、各年度の処理計画で自由度を増していくこともできる状況になってきていると思う。そこをどう評価するのか、やはり基本計画からでこう減らすというのを示した方がよいという考え方もあるように思う。</p> <p>前回の計画策定時にはP D C Aサイクルの概念があり、基本計画で決められたことを処理計画で回しているの、そのP D C Aサイクルをこの審議会の中で確認をする枠組みを作った。当審議会の位置付けとのセットで、基本計画とは何か、処理計画とは何かということも一旦整理した。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>前回の時は浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設の建設が決まり、安心してつとも建設途中だったため、とても細かく厳しく減らしていくという意思を示さなくてはいけない計画だった。計画策定支援受託者もどうやって目標値を決めるか、とても悩まれた。なおかつ、施策評価の際には施策を全て並べて、この審議会の委員で細かく採点した。それが余りにも煩雑で手間がかかったので、3年間ぐらいで修正されて簡素化したという経緯もあった。新たなP D C Aサイクルを運用してみると、やはり色々なことが起こる。この5年間でかなりフレキシブルに良い方に変えてきたのではないかと思っている。林委員としてはやり切り感が無いのかもしれないが、私としては、とりあえずできることが実現可能になった気がしている。また見直しをするときには、ぜひそういったご意見も、自分たちの負担も考えつつ出していただければと思う。</p>
<p>林委員</p>	<p>今は良いところに着地しているとは思う。以前は、目指したもののハードルがすごく高かった。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>そういう意味で言うと、ごみの処理・リサイクル事業として何をやるかもあるが、どう評価して回していくかが基本計画の事項になっていくということか。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>評価も、なかなか難しかった。講座だったら何回やったらそれでクリアと評価できるが、実際は新型コロナウイルス感染症</p>

保谷委員	<p>の大流行で1回もできない時期があった。そこはフレキシブルに考えた方がいいとは個人的に思う。</p> <p>結局、市民が生活しやすいほうが良いと思う。そうすると、やはりごみ袋は無料の方が良い。他市から来た人が、何で小金井市は高いのか、みんな有料なのかと言っている。全国第3位になるまで減っているのにも関わらず、まだごみ処理手数料を払い続ける必要があるのかという声も一般的にあると思う。</p> <p>意識の高い人たちは減らさないといけないと思っているが、非常事態宣言の間ずっと従って減らしてきたのに、なぜ今も何も変わらないのかという思いを不満として持っている人も多いと思う。そういう視点も計画に多少入れた方がよい。</p> <p>最終的には、いつでもごみを捨てられるし全て無料というところまでいけたら、小金井市としては最高である。コンビニエンスストアにごみを捨てるといふ人も結構いる。</p>
溝入委員	<p>今のコストの上でこれが成り立っている。そのコストは誰かがどこかで負担しなくてはいけないということは押さえないといけない。改善しよう、もっと負担を下げようとすれば当然維持コストはもっと高くなる。</p>
渡辺会長	<p>そういう要素もあるし、例えば、指定収集袋は市民への働きかけという要素もある。</p>
石原委員	<p>当事者意識のツールとしての要素もある。</p>
溝入委員	<p>そうやって意識を維持するというコストも必要となる。物を配るばかりではなく、人のところに対して働きかけるコストが必要になり、それも含めてごみ処理の経費である。現状維持するためにはものすごくお金がかかることを踏まえて、基本計画を改定するために何をするか、あるいは緩和してもよい部分がありれば緩和して、その分をどこかに回すのかという知恵を出すのが処理計画であると思う。</p>
渡辺会長	<p>幸いなことに小金井市は今までの経緯があり、ごみ処理に対する関心も高い。理想的なごみ処理の目標を掲げ、それを達成</p>

<p>溝入委員</p>	<p>することに意義を見いだしている人が多い。ごみの量を減らして理想的な状態に近づけるのも1つの形だと思う。安かろう、悪かろう、ごみが多くても安ければよいという考えもあるかもしれないが、多分それは成功しない。</p> <p>効率化の話がまた出てくるが、効率化という言葉は、私は使いたくない。効率とは何か全く議論されてない。とにかく安ければよいというのは効率化ではない。そうしておかないと、お金をかけずにやったことが市民サービスの向上だとは、少なくとも福祉・衛生、あるいは清掃の部分では絶対に言えない。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>非常事態が終わったとの認識は多分あると思う。今までは非常事態だったから頑張らなくてはいけないことがあったが、それが終わったのになぜ、というのは当然市民の中にある感情だと思う。そういうことも聞いてみてもよいのではないか。</p> <p>また、一つの方法として、例えば可燃ごみの処理手数料を5円上げさせていただく代わりに、プラスチックごみの処理手数料を無料にする。プラスチックが無料になったら、市民は可燃ごみではなく、プラスチックごみの方に入れるのではないか。そうやって資源の分別率を高める誘導もできると思うので、そういうことを聞きたいと考えた。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>アンケートの項目があまり多くなると、答えてもらえなくなってしまったので、バランスを取りながら考えるしかない。</p>
<p>今井ごみ対策課長</p>	<p>設問が増えると回答率が減ってしまうので。全体で20問くらいが限度だと思う。</p>
<p>石原委員</p>	<p>海外から2,000万人の外国人が日本に来ている。様々な国の人に会うが、とにかくごみ箱がなくごみもない、どういうことなのかと尋ねられる。彼らはコンビニエンスストアにごみ箱があることにも、すごい文化だと驚いている。</p> <p>そういう意味で言うと小金井市も十分すごいので、これだけお金をかけて、ここまでのことをやっているのだということを市民にもっと周知していく必要がある。ここは今後の基本計画策定の中で喫緊の課題になると感じる。</p>

渡辺会長

それでは以上をもって審議会を終了する。